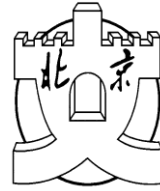


かささぎ



北京日本人学校
学校通信第5号
平成30年9月29日
校長 栗本 和明

日本に置いてきたもの

教頭 山中 正明

今年も敬老の日がある9月にかささぎ原稿執筆が回ってきました。去年は「中国で見つけたもの」だったのですが、今年は「日本に置いてきたもの」です。

北京に来てまもなく1年半がたちます。毎朝7時半ごろから学校とローズデールホテルの間にあるT字路で、バス迎え、道路横断安全確認、そして挨拶運動をやってきました。授業のある日は毎日ですから、年間200日近くは同じ所に、同じ時間帯に立っていることになります。当然日本人学校の児童・生徒、保護者の方だけでなくいろいろな人と顔見知りになります。中国語は「您好」しか話せませんが、いつの頃からか、顔見知りになった人たちと挨拶を交わすようになりました。小さく手を挙げて笑顔を見せるだけの挨拶の人もいます。朝の犬の散歩に来ておしゃべりを楽しんでいる人たち、夜間駐車場のタクシーの洗車を仕事にしている女の人、オレンジ色のつなぎを来て一生懸命道路や歩道の掃除をしてくれている作業員の方、お隣の幼稚園の先生や園児、そしてその保護者の方……。四得公園に朝の運動に行く人たちもたくさんいます。「今日は来ない。どうしたのだろう？」いつもの時刻に会えないと心配になったりします。そんな「顔見知り」の方たちの中に、年配の女性（おそらくお母さんでしょう）を毎朝車椅子で四得公園に連れて来られる男性（息子さん）がいます。夏の暑い日も、冬の寒い日も、雨の日も……。中国の人たちがお年寄りを大切にすることは、去年の「中国で見つけたもの」で書いたのですが、この親孝行な息子さんを見ていて私が思い出したのは「日本に置いてきたもの」です。自分の息子と娘も置いてきましたが、高齢の両親が日本にいます。「もう会えないかもしれない」「親孝行しなくてはいけない」「自分は何と親不孝なのだろう。」毎朝、自分で自分を責めています。

中国の人たちが高齢者だけでなく、年少者、年少者を連れている人にもとても優しく、大切に接していることは、誰もがすぐに気が付きます。中国の長い歴史の中で培われたすばらしい国民性でもあると思います。中国の良いところを日本に持ち帰りたいと思いつつも、自分で自分の親に孝行できないのも悲しいことです。国慶節休みに日本に帰る皆さん、日本の敬老の日は9月17日に終わってしまいましたが、お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん……。日本に置いてきてきた大切な人たちに、中国土産の「敬老の日」を持ち帰りましょう。

私の第2の仕事場、ローズデールホテル前のT字路にきれいな横断歩道の線が引かれました。明日からも子どもたちが安全に登校・下校できるよう、見守りたいと思います。



【運動会】先輩・後輩のつながり

運動会担当

「私たちのことをしっかりとサポートしてくれて、私たちが帰った後なども、暑い中で一生懸命頑張っていました。そんな中学生に私もなりたいです。」

「運動会はあっという間に終わったな、と感じた。競技の応援を、たてわり班の小学生や団のみんなと力いっぱいやっていたからだと思う。」

この言葉は、ある小学生と中学生のふりかえりです。北京日本人学校の運動会は、開会式に始まり、応援合戦、ハチノコジャンピオンなど、たてわり班をもとにした競技や活動がとても豊富です。1学期からの練習を通して、児童生徒は赤・白の勝敗だけでなく、先輩・後輩のつながりからさまざまなことを学び、大きな収穫を得ることができました。

保護者のみなさまには、家で声かけをしていただいたり、親子競技に参加していただいたりと、さまざまな形でご支援ご協力いただきました。本当にありがとうございました。



副団長の言葉

中学部 3年生

赤団 加藤佳以理

みなさん、暑い中運動会お疲れ様でした。みなさんが頑張ってくれたおかげで応援優勝も取れたし、今までで一番楽しい運動会になったと思います。来年は僕ら中学3年生はいませんが、今年よりもさらに楽しくて盛り上がるような運動会にしてください。もし北京にいたら、応援しにきます！

白団 吉田有夏

今回の白団のテーマは蝶でした。白団のみんなは蝶に成長できたかな？わたしは世界に二匹といたない、美しくも可愛らしい蝶に成長できたと思います。今年は惜しくも応援優勝を逃してしまいましたが、それ以上に大きなものをみんなからもらいました。応援してくださった先生方、保護者の皆様、本当にありがとうございました！！

夏休み作品展を終えて

小中連携部



多くの方に足を運んでいただいた夏休み作品展。絵画や書写、工作や手芸、自由研究など、見ていて興味を引き付けられる作品ばかりでした。展示期間中、廊下を通る度に自然と足が止まり、見入ってしまう児童・生徒の姿を多く見かけました。友だちの作品を見ては「これ、すごいよ！！よくここまで調べてあるね！」と驚いたり、「どうしたらこんなに上手に描けるんだらう。私も絵が上手になりたいなあ。」と素直に感心したりと、様々な感想をもったようです。学年を超えて、そして学部を跨いでお互いの作品を見合う機会は、日本人学校ならではの光景でしょう。

今年も作品展最終日の土曜日（9月1日）の最後の時間まで、多くの保護者の方で賑わっていました。中には家族連れで熱心に鑑賞されていた方もいらっしゃいました。児童と一緒に鑑賞されていた保護者の中には「お友達の作品の中からいいなと思うところを探してごらん。来年はもっといい作品をつくれるといいね。」と話したり、「調べ学習の記録は写真だけでなく、QRコードをつけて動画で見られるようにしてみたらどうだろう？」と、今年作品から来年の研究のヒントを得たりしている姿が見受けられました。興味のあることを探求する楽しさが、作品展から日々の学習へと広がり、今後の生活に活かされることを願っています。

たどろ！ま何人？

小学部

平成30年9月25日現在

	男子	女子	合計		男子	女子	合計
1-1	7	8	15	4-1	18	10	28
1-2	7	8	15	4-2	19	10	29
1-3	7	9	16	5-1	12	6	18
2-1	12	12	24	5-2	13	5	18
2-2	11	11	22	6-1	11	11	22
3-1	11	15	26	6-2	11	11	22
3-2	10	15	25	小総計	149	131	280

中学部

	男子	女子	合計		男子	女子	合計
1-1	5	5	10	3-1	7	6	13
1-2	6	5	11	3-2	5	5	10
2-1	10	6	16	中総計	43	32	75
2-2	10	5	15	総合計	192	163	355